

性格特性用語の研究 II

尾 関 守・小 田 哲 久

A Study of Personality Trait Words. II

Mamoru OZEKI and Tetsuhisa ODA

The impression formation task was introduced by S. E. Ash in 1946. In the typical form of the task, the pieces of trait information describing a hypothetical person are sequentially proposed to the subject, and the subject replied the likableness of the person to the closed ended scale. Though it is usual that the stimulus sets are proposed verbally, it is common to employ the tabulated values of the trait words which were previously rated on the likableness scales by means of questionnaire which proposes the each trait word in the visual form. The use of the evaluated values of the trait words has been focused on the categorization of the words, and some researchers used these values for estimating the result of integration. In this method, the effect of the distinction between the proposing verbal and visual methods have not been examined in the previous experiments. Once the evaluated values of each words have been used for estimating the result of the integration by algebraical calculation, the distinction between the proposing methods can be considered to be a significant factor. The purpose of this study was to test whether the distinction between the two methods affects the evaluation of the personality trait words or not. In the previous study by Ozeki and Oda, the 130 trait words were selected and psychologically evaluated by using the questionnaire form. In the present investigation, the same 130 trait words were evaluated by verbal presentation one after another, but the subject wrote down his response on the 7 points scale. The data was compared with the previous result, as mentioned above. By comparing the paired values of the same word, it became apparent that there exists a nonlinear relation between the visual and verbal presentations of the stimuli. The evaluated values of each trait words are summerized in a tabulated form which will be useful for the impression formation investigators.

I. 序 論

人物の特徴を表現する形容語に心理的評定値を附した表としては、英語では N. H. Anderson¹⁾による555語、日本語では青木孝悦教授²⁾による455語がそれぞれ公刊されており、いずれも信頼のおける基礎資料として、極めて有用である。ただし、それらの表の本来の目的はそれぞれ異ったものであり、前者が S. E. Ash³⁾によって考案された、「印象形成実験」の為の基礎資料としての利用を主目的として作成されているのに対して、後者は、日本語における性格表現用語の収集と分類を行う事を第一目的とし、対人知覚の為の評定紙を作成する為の基礎研究を行う事を第二の目的としている。

尾関及び小田⁴⁾は、上記の研究を背景として、印象形成実験の基礎資料とする事を目的として、被験者を名古屋地区の大学生に限定した表を作成したが、この時は、質問紙の左方に形容語を、質問紙の右方に7ポイントの目盛を置き、質問紙の上方から順に各語の評定を行わせて

ゆく形式を採用した。その後、筆者らは、この評定値を用いて印象形成実験を行って来たが、この様に、形容語を視覚刺激の形で被験者に呈示して得られた評定値をもとにして印象形成実験を計画する事には問題点がある。それは、印象形成実験は一般に、聴覚的刺激による情報統合の形態をとっているからである。即ち、刺激の呈示が視覚的である場合、各形容語の平均評定値は、異なる被験者群の間でも、大変良好な再現性を示す事が再三確認されて来ているとはいえ、視覚的な手段で刺激を呈示する事によって得られた評定値が、聴覚的刺激呈示の場合にも、ほとんど同一の評定値を再現するという保障はないからである。

II. 目 的

本研究は、第 I 報に於て採録のうえ選択された130語について、聴覚的な刺激呈示によって各語の平均評定値を得、これを第 I 報の視覚的の刺激による平均評定値と比較

しようとするものである。

III. 実験方法

3.1 被験者

被験者としては、第 I 報と同様に、名古屋地区の大学生（いずれも男子）を採用した。第 I 報では名古屋芸術大学美術学部工芸工業デザイン科と、愛知工業大学工学部経営工学科の学生を採用したが、本報では、名古屋商科大学商学部（商学科・産業経営学科）学生と愛知工業大学工学部経営工学科学生とを採用し、名古屋商科大学学生については、後日、刺激の呈示順序をかえて、再実験を行った。各被験者群の人数と所属を表 1 に示す。

3.2 形容語

評定実験に用いる形容語には、第 I 報で抽出・選定された130語をそのまま採用した。その内訳は、愛知工業大学生43名を被験者として自由記入形式によって抽出・選定された100語と、青木²⁾による表中から、上記100語と重複せぬよう、ランダムに選んだ語30語とである。

3.3 刺激

上記形容語130語を、第 I 報の評定実験で採用した呈示順序と同じ順序で読み上げてカセットテープに収録したもの（A刺激）と、その順序をランダム化してカセットテープに収録したもの（B刺激）とを作成し、愛知工業大学生を被験者とした実験、ならびに、名古屋商科大学学生を被験者とした1回目の実験にはA刺激を用い、名古屋商科大学学生2回目の実験にはB刺激を用いた（表 1 参照）。

3.4 評定用紙

評定用紙はB 4版3頁の小冊子の形態で、とじしろは上端中央1カ所とした。

第1頁：標題「性格特性用語の研究」と記名欄（学科・学籍番号・氏名）に続いて、以下に示す「教示」欄が印刷され、その次に、-3から+3までの数を上端に附した7段階のスケールを練習用に7本

と、本実験用の21本が用意された。このうち、最初の7本分は、練習用である事が明示されている。尚、各スケールの左端には、別のスケール上に誤って記入する事の無いように、実験番号が書かれている。

〈教示〉

あなたが次にあげる言葉を使って人を評価します。

①その言葉が

(イ) よい印象の時に使うと思われる場合は中心(0)より右側。

(ロ) 悪い印象の時に使うと思われる場合は中心(0)より左側。

という判断をして下さい。

(注)但し、どちらでもない場合には、中心(0)の所へ○印をつけて下さい。

②次に、その判断をした言葉の度合いを、

(イ) とても（良い・悪い）印象の時に使う……………(3)

(ロ) かなり（良い・悪い）印象の時に使う……………(2)

(ハ) や や（良い・悪い）印象の時に使う……………(1)

として、○印を該当位置につけて下さい。

第2頁：用紙全体が左右2欄に分割され各欄は28本のスケールから成り、各々、実験番号22から49及び、50から77が附記されている。

第3頁：体裁は第2頁と同様で、左欄に28本、右欄に25本のスケールが置かれ、実験番号78から105及び、106から130が附記されている。

3.5 実験手続

研究の意義を口頭で説明した後、カセットテープから「教示」を聞かせ、疑問点の有無をたずね、7語分の練習を行う。さらに疑問点の有無をたずねてから、本実験を開始する。刺激はすべてカセットテープからの音声により、実験番号に続いて性格特性用語（1語）が読み上げられる。実験時間は全体で30分間を要し、各被験者群単位で行った。

表 1 被験者群の構成

実験番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
所収論文	第 I 報						第 II 報		
被験者	名古屋芸術大学生	33名							
	愛知工業大学生		2 K 96名	3 K(1) 23名	3 K(2) 22名	3KS(1) 18名	3KS(2) 23名		82名
	名古屋商科大学学生						87名	86名	
刺激の呈示方法	視 覚						聴 覚		
刺激の呈示順序	A						A	B	A

IV. 結果

4.1 各刺激語に対する評定

評定実験の結果は、第 I 報と同様、被験者グループごとに、各形容語に対する評定値の平均値 \bar{x} と標準偏差 s の形で集約された (表 2)。さらに、結果表の右方には、今回の、聴覚刺激による実験を総合したデータと、第 I 報の評定実験のうち、愛知工業大学生による評定結果のみを総合したデータとが、いずれも、平均評定値 \bar{x} の形

で示されている。尚、これらの数値は、個人データを、その個人の評定傾向にもとづいて規準化するなどの、一切の操作を行っていない、単純な集計値である。

性格特性用語の配列に関しては、第 I 報では実験時における被験者への呈示順序をそのまま採用したが、今回は50音順として、検索をしやすくした。ただし、第 I 報のデータを参照する場合を考慮して、第 I 報のコードNo.を、性格特性用語の左欄に記載した。

表 2 性格特性用語評定実験結果

コード No	実験番号	7		8		9		7・8・9	2・3・4・5・6
	実験名	名古屋商科大学 1回目		名古屋商科大学 2回目		愛知工業大学		聴覚刺激総合	視覚刺激総合
	性格特性用語	\bar{x}	s	\bar{x}	s	\bar{x}	s	\bar{x}	\bar{x}
123	明るい	2.11	0.64	2.05	0.75	1.88	0.73	2.02	1.69
21	あくどい	-2.38	0.96	-2.38	0.74	-2.41	0.67	-2.39	-2.14
40	あたたかい	2.13	0.73	1.93	0.75	1.88	0.79	1.98	2.01
124	頭のいい	1.41	0.95	1.42	1.18	1.52	0.85	1.45	1.00
1	あまい	-0.66	0.97	-0.91	0.92	-0.59	0.93	-0.72	-0.24
108	いい加減な	-1.90	0.84	-1.86	0.84	-1.93	0.68	-1.90	-1.71
7	意地悪な	-1.67	0.90	-1.86	0.78	-1.78	0.65	-1.77	-1.75
63	いなか臭い	-1.07	1.20	-1.52	1.20	-1.01	0.92	-1.20	-0.90
12	いやな	-1.33	0.86	-1.70	0.95	-1.29	0.76	-1.44	-1.50
107	いやらしい	-1.83	1.04	-1.91	0.93	-1.87	0.72	-1.87	-1.39
34	陰気な	-1.77	0.76	-2.03	0.96	-1.91	0.80	-1.90	-1.13
126	陰険な	-2.16	0.70	-2.31	0.84	-2.23	0.67	-2.23	-1.81
76	ういういしい	1.29	0.95	1.30	0.86	1.11	0.83	1.24	0.85
116	うそつき	-1.98	1.11	-2.29	0.75	-2.21	0.62	-2.16	-1.86
29	うっとおしい	-2.09	0.91	-2.43	0.85	-2.11	0.63	-2.21	-1.94
50	うるさい	-1.59	0.79	-1.70	0.87	-1.80	0.74	-1.69	-1.40
25	おかしい	-0.64	1.32	-0.60	1.24	-0.60	1.10	-0.61	-0.08
33	おしゃべり	-1.26	0.72	-1.30	0.65	-1.29	0.78	-0.73	-0.57
17	恐ろしい	-1.41	1.22	-1.60	0.90	-1.59	0.86	-1.53	-1.30
129	落ち着きのある	1.63	0.70	1.58	0.93	1.52	0.67	1.58	1.38
35	落ち着きのない	-1.26	0.72	-1.30	0.65	-1.29	0.78	-1.28	-1.20
99	おっちょこちょい	-0.52	0.87	-0.92	0.87	-0.61	0.86	-0.68	-0.43
8	おっとりした	0.29	1.02	0.03	0.99	0.22	1.02	0.18	0.16
86	おとなしい	0.53	0.89	0.07	0.92	0.38	0.83	0.33	0.50
66	お人よし	-0.08	1.04	-0.44	1.10	-0.05	1.02	-0.19	0.14
32	思いやりのある	2.30	0.63	2.29	0.72	2.09	0.63	2.23	1.84
121	おもしろい	1.32	0.80	1.28	0.89	1.21	0.75	1.27	1.18
67	温厚な	1.36	0.75	1.26	0.91	1.29	0.90	1.30	1.21

48	かしこい	1.44	1.03	1.72	0.89	1.61	0.83	1.59	1.23
5	カッコイイ	1.06	1.15	1.09	0.99	0.99	1.04	1.05	0.51
51	活発な	1.69	0.75	1.73	0.80	1.63	0.68	1.68	1.28
94	がまん強い	1.61	0.75	1.70	0.92	1.43	0.74	1.58	1.19
54	がめつい	-1.74	0.86	-1.84	0.97	-1.59	0.80	-1.73	-1.41
43	かわいい	1.52	0.89	1.53	1.32	1.38	0.96	1.48	1.40
105	がんこ	-0.89	1.17	-0.80	0.98	-1.16	0.85	-0.95	-1.06
42	寛大な	1.75	0.98	1.85	0.90	1.62	0.81	1.74	1.61
24	気が長い	0.46	0.97	0.30	1.03	0.35	1.09	0.37	0.38
104	気が短い	-1.38	0.61	-1.21	0.87	-1.38	0.76	-1.32	-1.18
78	気が弱い	-0.99	0.66	-1.21	0.70	-1.29	0.66	-1.16	-1.01
27	気軽な	1.21	0.86	0.93	0.90	1.22	0.82	1.12	1.12
13	きさくな	1.44	0.90	1.26	0.77	1.41	0.83	1.37	1.23
56	キザ	-1.43	1.17	-1.71	1.07	-1.45	1.03	-1.53	-1.94
86	きちょうめん	1.20	0.85	1.22	1.02	0.94	0.84	1.12	0.71
90	きつい	-1.22	0.78	-1.01	0.90	-1.00	0.83	-1.08	-1.12
113	気にくわない	-1.71	0.81	-2.00	0.78	-1.82	0.69	-1.84	-1.63
71	気の多い	-0.60	1.14	-0.86	1.01	-0.76	0.85	-0.74	-0.60
53	気前がいい	1.40	0.95	1.15	1.05	1.21	0.83	1.25	0.89
11	きまじめ	0.28	1.11	0.56	1.16	0.21	1.00	0.35	0.51
20	気楽な	0.69	1.00	0.37	1.17	0.80	0.84	0.62	0.99
59	勤勉な	1.43	1.06	1.22	1.23	1.38	0.86	1.34	1.05
58	グズグズした	-1.80	0.76	-2.02	0.84	-1.90	0.70	-1.91	-1.64
55	口が悪い	-1.66	0.74	-1.58	1.00	-1.50	0.84	-1.58	-1.54
125	口ばっかりの	-1.97	0.83	-1.93	0.99	-2.12	0.78	-2.00	-1.75
87	くどい	-1.72	0.68	-2.09	0.78	-1.71	0.78	-1.84	-1.70
49	暗い	-1.41	0.80	-1.97	0.79	-1.60	0.70	-1.66	-1.14
44	けち	-1.38	0.96	-1.78	0.89	-1.45	0.79	-1.54	-1.53
6	元気の良い	1.76	0.70	1.73	0.80	1.68	0.68	1.72	1.34
19	謙虚な	1.11	0.64	1.36	0.87	1.10	0.83	1.19	0.81
23	行動的	1.71	0.83	1.95	0.78	1.63	0.69	1.77	1.44
98	こせこせした	-1.63	0.78	-1.57	0.79	-1.49	0.65	-1.56	-1.51
22	子供みたいな	-0.25	1.01	-0.47	1.07	-0.27	1.02	-0.33	-0.19
38	こまめ	0.90	0.78	0.70	0.88	0.89	0.65	0.83	0.69
85	こりしょう	0.37	0.90	0.09	1.05	0.04	0.81	0.17	0.17
47	根性がある	2.13	0.90	2.24	0.80	2.00	0.72	2.13	1.80
68	さみしがりや	-0.09	0.98	-0.50	0.79	-0.37	0.73	-0.32	-0.08
73	しつこい	-1.64	0.75	-1.78	0.91	-1.73	0.74	-1.72	-1.80
65	自発的な	1.37	0.85	1.59	0.94	1.50	0.79	1.49	1.13
10	じみ	-0.02	0.94	-0.35	0.92	-0.16	0.91	-0.18	0.28
52	じみちな	1.55	0.87	1.28	1.06	1.32	0.73	1.38	0.90
26	社交的	1.66	0.99	1.30	0.93	1.63	0.68	1.53	1.21
93	消極的な	-1.07	0.79	-1.37	0.77	-1.22	0.70	-1.22	-1.01

128	正直な	2.08	0.80	1.79	0.84	1.84	0.78	1.91	1.79
102	神経質	-0.94	0.83	-0.84	0.93	-1.02	0.77	-0.93	-0.73
106	親切的な	1.94	0.80	2.03	0.74	1.66	0.89	1.88	1.55
80	慎重な	0.93	0.76	0.99	0.91	0.78	0.82	0.90	0.60
18	心配性	-0.74	0.71	-0.70	0.90	-1.18	0.67	-0.87	-0.69
61	しんぼう強い	1.68	0.72	1.62	0.86	1.55	0.77	1.62	1.47
4	ずうずうしい	-2.15	0.86	-1.95	0.93	-2.09	0.71	-2.06	-1.74
70	すがすがしい	1.80	0.78	1.64	1.30	1.67	0.70	1.70	1.51
127	ステキな	1.91	0.79	1.73	0.96	1.76	0.82	1.80	1.22
46	すなお	1.67	1.05	1.86	0.77	1.55	0.77	1.70	1.59
41	ずるい	-1.86	1.10	-1.86	0.87	-1.99	0.66	-1.90	-1.99
62	ずるがしこい	-1.77	0.98	-1.95	0.99	-1.89	0.74	-1.87	-1.64
112	するどい	1.08	1.01	1.01	1.12	0.78	1.09	0.96	0.61
130	責任感のある	2.23	0.76	2.16	0.91	2.17	0.68	2.19	2.12
95	積極的な	1.83	0.81	1.79	0.92	1.84	0.78	1.82	1.33
64	善意のある	1.60	0.83	1.67	0.90	1.65	0.84	1.64	1.36
69	大胆な	0.45	1.16	0.55	1.04	0.32	0.75	0.44	0.44
91	たのもしい	1.86	0.61	2.09	0.76	1.73	0.72	1.90	1.34
39	頼れる	2.13	0.73	1.84	0.76	1.89	0.79	1.96	1.72
89	短気	-1.39	0.74	-1.09	0.93	-1.46	0.67	-1.31	-1.19
103	単純	-0.67	1.03	-0.99	1.10	-0.76	0.85	-0.81	-0.61
120	注意深い	0.49	0.94	0.79	0.93	0.56	0.96	0.61	0.49
97	付き合いにくい	-1.85	0.65	-1.80	0.70	-1.84	0.68	-1.83	-1.60
77	冷たい	-1.53	0.95	-1.40	0.80	-1.49	0.69	-1.47	-1.10
83	どじ	-1.21	0.98	-1.76	1.01	-1.29	0.90	-1.42	-1.21
9	努力家	1.74	1.07	1.78	1.27	1.88	0.78	1.80	1.76
57	鈍感	-1.23	0.82	-1.63	0.95	-1.15	0.72	-1.34	-1.18
81	なまけもの	-1.76	0.95	-1.84	0.78	-1.89	0.63	-1.83	-1.74
79	にぶい	-1.51	0.73	-1.65	0.79	-1.44	0.57	-1.53	-1.43
92	人間味のある	2.15	0.74	1.80	0.87	1.89	0.72	1.95	1.78
37	念入りな	0.93	0.85	0.85	1.00	0.78	0.77	0.85	0.46
109	のろま	-1.25	0.92	-1.70	1.10	-1.35	0.69	-1.43	-1.32
75	のんき	-0.29	1.03	-0.44	1.01	-0.55	0.88	-0.42	-0.21
31	バカ	-1.77	1.04	-2.02	1.07	-1.70	1.07	-1.83	-1.77
45	派手な	-0.69	0.96	-0.50	1.12	-0.77	0.79	-0.65	-0.68
15	ひかえめな	0.74	0.88	0.17	1.19	0.63	0.87	0.51	0.52
36	ひきょう	-2.33	0.77	-2.37	0.77	-2.26	0.86	-2.32	-2.40
111	人がいい	0.91	1.11	0.69	1.08	0.73	1.01	0.78	0.69
28	人付き合いの良い	1.92	0.75	1.90	0.67	1.80	0.81	1.87	1.80
30	ひねくれた	-2.00	0.90	-1.99	0.71	-2.09	0.59	-2.03	-1.90
88	敏感	1.14	0.82	1.03	1.00	0.78	0.86	0.99	0.68
122	ふまじめな	-1.69	0.74	-1.63	0.97	-1.70	0.70	-1.67	-1.49
60	包容力のある	2.07	0.64	1.88	0.76	1.71	0.78	1.89	1.56

74	間が抜けている	-1.56	0.77	-1.80	0.91	-1.55	0.82	-1.64	-1.30
101	負けず嫌いな	0.87	1.08	1.30	1.04	0.90	1.01	1.02	0.49
117	まじめ	1.33	1.02	1.27	1.05	1.16	0.91	1.26	1.01
3	みえっぱり	-1.55	0.94	-1.51	1.05	-1.55	0.83	-1.54	-1.45
118	魅力的	1.97	0.86	1.77	0.90	1.74	0.89	1.83	1.49
2	無 口	-0.80	0.70	-0.84	0.97	-1.16	0.68	-0.93	-0.57
72	物静か	0.61	0.91	0.14	1.08	0.35	0.89	0.37	0.38
96	やさしい	2.08	0.78	1.91	0.79	1.80	0.74	1.93	1.93
114	ゆかいな	1.76	0.68	1.42	1.01	1.55	0.88	1.58	1.30
14	陽気な	1.85	0.74	1.69	0.77	1.77	0.81	1.77	1.77
16	用心深い	-0.25	1.00	0.23	1.14	-0.37	0.75	-0.13	-0.20
100	要領のいい	-0.21	1.12	0.20	1.33	0.13	1.20	0.04	-0.63
110	楽観的な	-0.07	1.18	-0.24	1.07	-0.04	1.09	-0.12	0.21
115	立派な	1.93	0.74	1.90	0.99	1.71	0.73	1.85	1.32
82	冷静な	1.55	0.68	1.42	0.96	1.33	0.83	1.44	0.79
119	忘れっぽい	-1.00	0.65	-1.08	0.83	-1.21	0.60	-1.09	-0.74

4.2 実験群の相関関係

実験相互間の関係を見る為に、表2に示されたデータのうち、2つの実験の \bar{x} 値をとりあげてグラフ化した。各グラフのx軸とy軸は、表3に示すとおりである。

表3 各グラフの変数

	x 軸	y 軸
図1	実験7の \bar{x}	実験8の \bar{x}
図2	実験7の \bar{x}	実験9の \bar{x}
図3	実験8の \bar{x}	実験9の \bar{x}
図4	視覚刺激総合の \bar{x}	実験7の \bar{x}
図5	視覚刺激総合の \bar{x}	実験8の \bar{x}
図6	視覚刺激総合の \bar{x}	実験9の \bar{x}
図7	視覚刺激総合の \bar{x}	聴覚刺激総合の \bar{x}

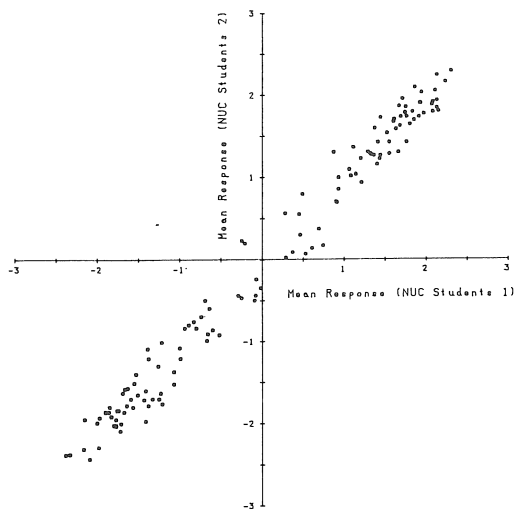


図1 名商大学生による平均評定値比較図
(刺激の呈示順序を変えた場合)

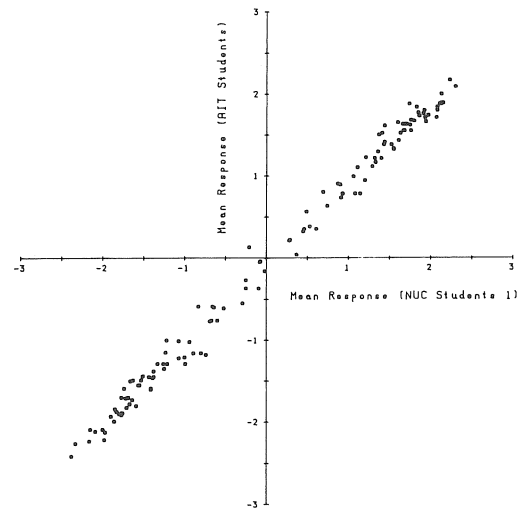


図2 名商大学生と愛工大学生による平均評定値比較図
(同一の刺激で、被験者が異なる場合)

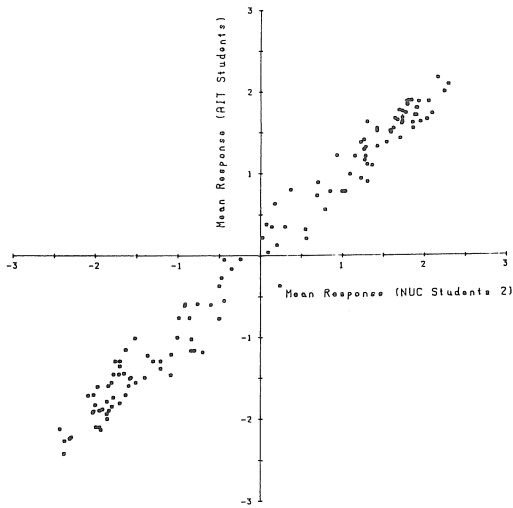


図3 名商大学生と愛工大学生による平均評定値比較図
(刺激の呈示順序と被験者の両方とも異なる場合)

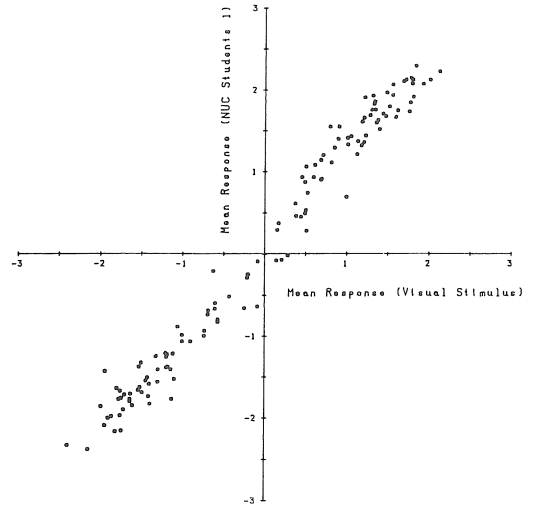


図4 視覚刺激による評定値と、名商大学生による第1
回目との比較図(刺激の呈示順序は同一の場合)

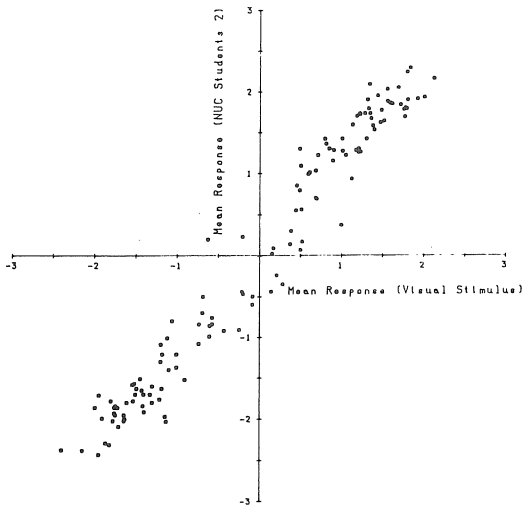


図5 視覚刺激による評定値と、名商大学生による第2
回目の評定値との比較図(共通条件は無い場合)

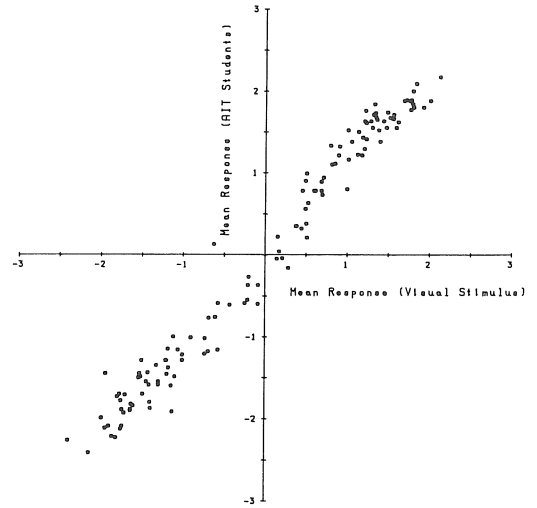


図6 視覚刺激による評定値と、愛工大学生による評定
値との比較図
(被験者群はいずれも愛工大学生の場合)

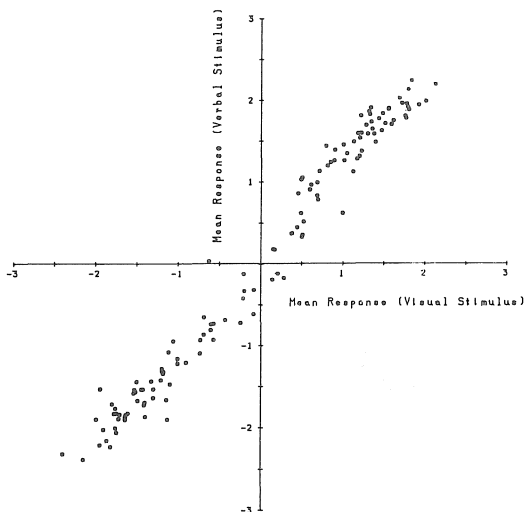


図7 視覚刺激による評定値と、聴覚刺激による評定値との比較図
(異種刺激による実験結果の総合比較)

V. 考 察

5・1 聴覚刺激による結果について

図1, 図2, 図3は, いずれも, 今回の聴覚刺激による平均評定値どおしの比較図であるが, 各図とも, よい直線的比例関係を示している。しかしこれらの図を相互比較すると, 最も点のちらばり具合の少ないのは図2であって, 図1ではない。すなわち, 最も高い再現性は, 同一の刺激呈示順序の場合であって, 同一被験者群の場合ではない。この事は又, 図1と図3のちらばり具合に大きな差の認められない事からも推察される。

5・2 視覚刺激と聴覚刺激

図4, 図5, 図6, 図7は, 視覚刺激による平均評定値と, 聴覚刺激による平均評定値との比較であるが, どの図からも, 弱いながら, S字状の非線形関係が読みとれる。このS字状の曲線の持つ意味はまことに重大であり, 刺激手段が異ると被験者の心の中に浮ぶ印象の大き

さが異なるか, あるいは, 被験者がスケール上に応答する仕方が異ったものとなるかのいずれか, あるいは両者の可能性がある。

VI. 結 論

今回の実験結果を第I報の実験結果と比較した所, 弱いながらも非線形な関係が認められた。この事から, 今後, 聴覚的刺激による印象形成実験を行ってゆくには, 視覚的刺激による評定値ではなく, 聴覚的刺激による評定値を, 各語の評定値として採用してゆく必要があるといえよう。単に刺激語をH(よい印象の時に使う), M(中間的な印象の時に使う), L(悪い印象の時に使う)といったランクに分類し, これを元に刺激語の組合せを作ってゆく, 伝統的な方法に用いている限り, 特別に大きな誤差を生じるとも思われぬが, 各語の平均評定値を代数的に結合して, 応答結果を予測するといった分析に平均評定値を使う場合には, 今回検出された程度の, わずかな非線形性であっても, 結果に重大な系統的誤差をもたらすおそれがあるといえよう。

一方, グラフがS字状を呈した原因については, 当面, 断定的な解釈を加える事は差し控えたい。この原因を明らかにするには, 今後, 多くの実験を積み重ねてゆく必要があると思われるからである。

参考文献

- 1) Anderson, N. H.: Likableness ratings of 555 Personality-Trait Words, *Journal of Personality and Social Psychology*, 9 (3), 272-279, 1968.
- 2) 青木孝悦: 性格表現用語の心理・辞典的研究, *心理学研究*, 42(1), 1-13, 1971.
- 3) Ash, S. E.: Forming Impressions of Personality, *Journal of Abnormal and Social Psychology*, 41, 258-290, 1946.
- 4) 尾関 守・小田哲久: 性格特性用語の研究 I, *愛知工業大学研究報告*, 16, 61-79, 1981.

(受理 昭和60年1月30日)